第11回神戸市みちの懇談会（議事要旨）

日　時　平成21年６月24日　午前９時30分～12時00分
場　所　神戸市役所都市計画総局大会議室

１．第９回・第10回のみちの懇談会での主な意見と今後の検討方針について

・自転車について、環境負荷が少ないと言われているが、自転車利用を促進すると、道路上での自転車の占める面積が広くなり（自転車道や駐輪場の整備など）、様々な支障（自動車の車線減少など）が出てくるので、広い意味でのコストがかかる。かえって環境負荷が上がることも考えられるので、もう少し具体的に、プラスもマイナスも含めて、価値判断をすべきではないか。
・神戸として自転車をどうしていくべきなのか、方針をたててから対策を考えることが大切。
・ウォーターフロントの中では、自転車は新しい交通手段として取り入れられると考えられる。

２．みちづくり計画の骨子及び今後の検討スケジュールについて

・2025年を目標とするためには、この20年間で、都市更新や道路の更新が行え得るところをピックアップして整理することが極めて重要と考える。
・都心部・住宅街・農村部など、地域によって状況は変わってくるので、地域性に応じた施策が必要。ユニバーサルデザインは特にその考え方が必要であり、そのことをきちんと明記する必要がある。
・神戸の地理的条件や地域の特色に応じた課題、優先順位が違うということを、常に視点として持っておく必要がある。

３．都心・ウォーターフロントの交通体系について

・ウォーターフロントのみちという観点から、西の兵庫運河周辺、東の阪神間のなぎさ海道とどうつなぐかも非常に重要。
・ウォーターフロントの回遊性の中で、水上交通が必要ではないか。
・水上交通や鉄道で自転車を運べるようにするなど、自転車と他の交通体系との組み合わせによりネットワークが形成できると非常に魅力的になる。さらに、フランスなどのレンタサイクルのシステムを導入すると、みんなが気軽に利用できる。
・10年、20年かけての計画なので、今ある技術だけではなく、例えば軌道の要らないＬＲＴなどの実現を視野に入れ、今の道路ネットワークを使いながら、全体を回遊する可能性もある。
・環境を楽しめるように緑を集中的に配置して、歩いたり、自転車や船に簡単に乗れるようにして、神戸市民が手軽に行けるような場所にすると、需要としても見込める。
・神戸の都心は車で行きやすい。車の流入を排除してしまうことが、いわゆる都心のにぎわいや経済的にプラスかどうか疑問がある。休日のレジャー、ショッピング、あるいは平日の通勤など、目的によっても施策は異なる。
・パーク・アンド・ライドが不便だとすると、都心部へ着いてから後の動きが不便なのか、最寄駅まで行く手段が不便なのかという両面がある。
・臨港線からのつながりの中で、神戸震災復興記念公園やウォーターフロントに自転車歩行者道をうまく組み込んではどうか。

４．その他

・横浜市などが電気自動車のインフラを積極的に行っているが、神戸市はどう考えているのか示してほしい。
・アセットマネジメントは、全ての橋をリフレッシュするには財源が難しい。橋がだめになることによって何が起きるかということを予測して、必要性を議論していく必要がある。
・整備のときに様々な新技術をビルトインする方策を検討してほしい。